



株式会社ハイマックス

Slackと他システムとのデータ変換を自動化し運用工数を1/10に削減

株式会社ハイマックスは、システムの企画から、設計・開発、稼働後のメンテナンスに至るまで、ライフサイクル全般に渡りソリューションを提供するSI企業。テレワークでも利用可能なRPA「RPA on DaaS」など、ユーザーニーズに基づく各種サービスの提供も行っている。

RPA on DaaS

お客様先で業務を行う社員が多い同社では、オンラインミーティングでも円滑なコミュニケーションが図れるよう、新たにSlackの導入を進めることにした。

同社技術部がこのSlackの導入・運用を担当。しかし技術部は、新技術の調査・研究や事業部門への技術支援がメイン業務。そこでSlack運用負荷の最小化を図るための検討を行った。



課題 1 Slack運用の業務負荷

社員の増員が頻繁に行われており、その都度Slack上のユーザー情報を手動でアップデートする運用では技術部のメイン業務に支障をきたすため、ユーザー管理作業の負荷軽減が課題に。

課題 2 データ変換処理

Slackユーザー情報と社内ユーザー情報との保持フォーマットが異なるため、データの加工・変換に人手を要した。これらの自動化、省力化を簡単に行える仕組みが必要となった。

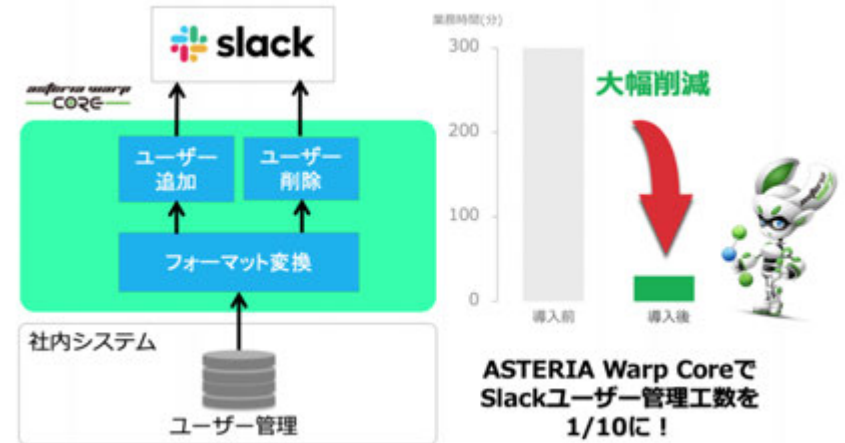
課題 3 再利用による効率化

Slack以外の社内ツールでも類似業務が数多く存在し、社内負荷を高めていた。これらを一から同じ工数をかけて開発するのではなく、一度作った仕組みを再利用できる開発ツールが必要と判断。

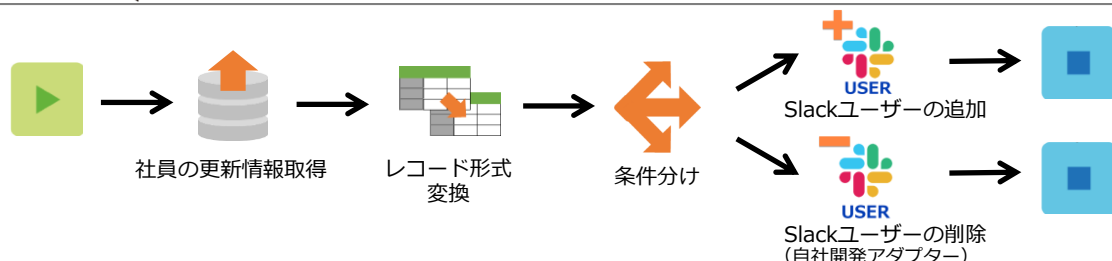
ASTERIA Warp Core導入効果

- Slackユーザー管理の運用工数を1/10に削減**
 ASTERIA Warpの処理を実行するだけで、人手を介することなく従業員の変更情報をSlack上のユーザー管理情報に反映。これまで月5時間かけていたSlack運用工数が30分にまで削減できた。
- 開発生産性の向上**
 グラフィカルなインターフェースでデータ変換・連携処理の開発が容易に。また、Slackユーザーの追加・削除を行う「Slackアダプター」を自社で開発。この独自（オリジナル）アダプターを利用することで、処理の可読性を向上。これにより類似業務への横展開をさらに促進。
- メンテナンス性の向上**
 定義内容を見るだけで、処理イメージが即座に把握でき、保守が容易に。

ASTERIA Warp CoreによるSlackユーザー管理の概要



asteria warp CORE 例えば「ユーザーの追加・削除」はこんな処理をしています。



お客様から一言
ASTERIA Warp Core のココがGood!



プロジェクト革新本部
開発センター長（兼）技術部長
波多野 耕平 様

製品の使い勝手がよく、かつ月額課金モデルで小さく始められるASTERIA Warp Coreを採用したのは正解でした。自動化プロジェクトは小さく始めて、その効果を確認してから類似業務に横展開するのが一般的ですので、最初に月額課金モデルのASTERIA Warp Coreでスタートしましたが、今後社内展開が進めば、ゆくゆくはライセンスモデルであるASTERIA Warp Standardに切り替えていきたいと考えています。